

IKITOMO

自然の恵みを感じる生物多様性マガジン 「イキトモ」

わたしたちが
今できること。

ハリソン・フォード
エドワード・ノートン
MISIA

草野満代
土屋アンナ
茂木健一郎
ルー大柴



VOL.

6

WINTER
2014

みんなの生物多様性



Message to Bio-diversity

Harrison Ford

Actor
Vice Chair, Conservation International

Three years ago, I had the privilege of attending the Convention on Biological Diversity summit in Nagoya, Japan. That landmark event launched the UN Decade on Biodiversity: 2011-2020, with ambitious targets for worldwide nature conservation.

Despite important progress on expanding protected areas on land and in the oceans, the environmental challenges facing humanity have never been greater. I saw this firsthand on a recent trip to Indonesia where rich areas of biodiversity are in jeopardy. I witnessed the negative impacts of deforestation on livelihoods and on critical habitat for tigers, elephants, and orangutans.

At Conservation International, an organization I joined more than 20 years ago, we work with governments, industry and communities to value and protect biodiversity and the reservoirs of natural resources on which people depend.

Through our work, governments and the private sector have begun to recognize the direct connection between natural resources and economic and national and global security. For instance, global leaders have put a spotlight on how illegal elephant poaching and ivory trafficking are linked to organized crime syndicates and terrorist networks.

I encourage continued efforts to protect biodiversity because simply put, nature does not need people, people need nature.



ハリソン・フォード

俳優・
コンサベーション・インターナショナル
副理事長

世界的に知られた映画俳優であり、飛行家、大工の一面をもつ一方、熱心な環境活動家としても知られ、20年以上にわたりNGO「コンサベーション・インターナショナル」の理事(現副理事長)として環境保全活動に従事している。

Mr. Ford has been an active member of the Board of Directors of the NGO, Conservation International, for over 20 years. In addition to his conservation work, he is an avid pilot, carpenter and world-renowned actor.

ハリソン・フォードさんから 直接、メッセージが届きました。

私は、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に参加する機会に恵まれました。この会議では、世界の自然保全のための野心的な目標とともに、「国連生物多様性の10年」(2011-2020年)を国連総会で採択するよう勧告することが決定されました。

陸域及び海域の保護地域の拡大など重要な進展が見られる一方で、人類が直面する環境問題はかつてないほど深刻です。先日、インドネシアを訪れた際には、生物多様性に富んだ地域が危機的な状態に陥っている状況をこの目で見てきました。森林伐採が、人々の暮らしや、トラ、ゾウ、オランウータンの重要な生息地に与える負の影響を、目の当たりにしたのです。

私が20年以上前から参加しているコンサベーション・インターナショナルは、政府、企業、地域コミュニティと共に、人々の暮らしを支えている生物多様性や自然資源の重要性を認識し、保全するために協働しています。

我々の活動を通して、政府や企業は、自然資源と国や経済の安定との直接的な関連性を認識するようになってきました。例えば、ゾウの密猟と象牙の不正取引が組織犯罪やテロ活動につながり、社会の安定を阻害していることに、今、世界のリーダー達が注視しています。

私は、これからも生物多様性保全のための継続的な取り組みを働きかけていきたいと思っています。自然はヒトを必要としないけれど、ヒトは自然を必要とするのですから。



- 食べ物に感謝し、自然を大事にする。
- 動物の命をいただく時はありがとうと思う。

MY 行動宣言

生物多様性のために、私たちが出来るアクションを選んで宣言できます。
みなさんもまずここから始めてみませんか。

→ <http://undb.jp/committee/tool/action/>

みんなの生物多様性 わたしたちが今できること。

□ 俳優・生物多様性国連親善大使

エドワード・ノートン
Edward Norton

国際生物多様性年である2010年に生物多様性国連親善大使に任命。任命前より、ケニアの土地の保護を行うNPOなどを通じて、環境保護問題に取り組む。代表作に映画『真実の行方』や『アメリカン・ヒストリーX』などがある。



工 ネルギーの効率的な利用や汚染・有害廃棄物の削減については簡単だが、それに比べて生物多様性の危機に対応する具体的な方法を挙げるのは難しい。しかし、ほとんどの人ができて、是非ともすべきである、そしてすぐに効果が見込めるひとつの事は、ビニール袋やプラスチックのボトルを減らすことだ。僕たちがプラスチックを生態系に持ち込むことは、非常に破壊的な影

響をもたらすんだ。同様に、森林破壊や海洋の酸性化などの問題をわかりやすく説明することも難しい。だからこそ、国際的な取り決めを通じて政府間機関によって取り組まなければならないと思う。つまり、リーダーシップの問題、自分たちの優先事項がきちんと取り上げられるように、自分たちの指導者どうやってコミュニケーションしていくかだ。(就任時のインタビューより)

- ビニール袋やプラスチックボトルを減らす。
- 政治家などのリーダーに意思を伝える。

□ モデル・アーティスト

土屋アンナ
Anna Tsuchiya

モデルとしてデビュー後、2004年に映画『下妻物語』で日本アカデミー賞新人賞・助演女優賞などの賞を受賞。歌手としても幅広く活動。2010年より「地球いきもの応援団」に参加。大型犬と猫4匹と暮らす。



小 さな頃から自然に囲まれ、動物たちに囲まれている家庭で育ちました。現在でも、命ある生きものが近くにいる、一緒に生活している毎日です。海があり、土があり、木々があり、動物や虫、命あるすべての生きものは、始まりがあり終わりがある…。日々の生活では忘れがちな、自然界が創り出すサイクルやルールをまず思い出したい。

す べてにおいて経済優先という考えを見直し、長く、ともに生きていくという意識を育てることだと思います。個人ができることはたくさんありすぎるがゆえに、見つけられずにいる人が多いのでしょう。私の故郷は、古くからヒノキの産地です。里山の暮らしはもうありませんが、時折、森に還って、その恵みを肌で感じることにしています。何が大切なのか、これからの自分の暮らしの指針も見えてくるのです。

- 半径5メートルの生物多様性を意識して見渡してみる。



□ フリーアナウンサー

草野満代
Mitsuyo Kusano

岐阜県中津川市生まれ。日本放送協会に入局、アナウンサーとして活躍後、1997年よりフリーランスに。2010年より「地球いきもの応援団」に参加。テレビ東京系「L4you」司会など幅広く活躍。



- まずは身近な自然に興味を持つこと。

多 様性のある環境の中にいると脳が健康に保たれ、さまざまな学びが可能になる。ふと見かけた昆虫や鳥の名前を図鑑で調べてみよう。鉢植えに生えてきた雑草の様子を眺めてみよう。多様な対象に向き合うことで、脳の認知の回路が豊かになり、アンチエイジングにつながるのだ。



□ 脳科学者・作家・ブロードキャスター

茂木健一郎
Kenichiro Mogi

クオリア（感覚質）をキーワードに脳についての研究を行う。著作に『脳と仮想』『今、ここからすべての場所へ』など。2010年より「地球いきもの応援団」に参加。

INTERVIEW

第3回
企業と生物多様性

森を作る農業とチョコレート。

萩原秀和

(明治・菓子マーケティング部
マーケティンググループ長)

はぎわらひでかず 「アグロフォレスト
トリーチョコレート」を担当。実家の
農地でとれる旬の野菜・果物が好物。



Q 「アグロフォレストトリーチョコレート」が2013年12月に、第10回エコプロダクツ大賞の環境大臣賞を受賞されましたね。

A 森を作る農業IIアグロフォレストリーで栽培された、ブラジル・トメアスー農園限定のカカオ豆を使用したチョコレートで、森林再生につながる画期的な仕組みから生まれた商品として、高い評価をいただきました。

Q アグロフォレストリーはあまり聞き慣れない言葉ですね。

A 農業（アグリカルチャー）と林業（フォレストリー）を組み合わせた言葉。多様な樹木や農作物を同時に育てることにより、持続可能な土地利用を行うつつ、生物多様性を保全する農法として注目されています。

Q ブラジル東部トメアスー郡

で実施されているのですか？

A トメアスーは80年以上前から日系移民が入植した場所ので、日系人がカカオ豆を生産しています。明治ではこのトメアスー産カカオ豆からとれたカカオマスを100%使った「アグロフォレストリーチョコレート」を2011年3月から販売しています。

Q 従来のはカカオ豆のブレンドで味を決めるそうですね。

A このアグロフォレストリーチョコレートはシングルビーン（単一豆）で製造しています。トメアスー産カカオの味がストレートに感じられると思います。2013年からは「チョコレート効果」（カカオ72%、86%、95%）の3商品にトメアスー産カカオ豆のブレンドを開始しました。

うれしい結果として、チョコレート自体も大変おいしくなったのです。またパティシエさんなどの業務用原料として、素材を使ったチョコレート生地、ココアを提供させていただいております。

Q この取り組みは継続していくことを前提としているとお聞きしました。

A 明治ではこのチョコレートを通して、アマゾンの生物多様性の保全と森林再生という地球環境への貢献をしていきたいと考えています。この取り組みは事業として位置付けているため、持続可能なプロジェクトとして、じっくりと向かいあうことができるのが利点で、さらなる品質向上を目指して、研究員が年2回程度、現地に滞在して、協働で取り組んでいます。



- ポイ捨てをしない。
- 電気の付けっぱなしをやめる。
- マナーを守った生活をする。

□ タレント

ルー大柴

Lou Oshiba



2007年NHKみんなのうたで歌った「MOTTAINAI」をキッカケに富士山の樹海清掃&地域でのゴミ拾い活動などに参加。2010年より「地球いきもの応援団」に参加。2012年には「生物多様性リーダー」に任命される。

川 でドジョウやメダカなどを採集し、家でトゥギャザーしています。生きものがいると和みますし、気持ちに余裕が生まれます。地球に住んでいるのは、人間だけではありません。他の生きものたちも平和に暮らせるようにするにはどのようにしたら良いかを考え、行動する人を、一人でも多く増やしてゆくことが大切だと思います。私自身、自分でできることとして、近くの公園の清掃をしています。晩秋に落葉を集めコンポストを作り、春に花壇へ撒いて使っています。

生物多様性を守るためには、一人ひとりが生物多様性との関わりを日常の暮らしの中でとらえ、実感し、身近なところから行動することが第一歩なのです。



- 私たちをとりまく身近な自然のことを知る。
- 生物多様性に配慮した商品を購入する。
- そして、人に伝えること。

□ 歌手

MISIA

MISIA

2010年、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）名誉大使を、2013年には第5回アフリカ開発会議（TICAD V）名誉大使を務めた。森林保全活動や環境教育プログラムなど、数々の活動を通して情報を発信する。



以前、石川県で県内有数の大きさの棚田を視察した際、減農薬の試みにより、生きものが帰ってきたと伺いました。『今ならまだ、間に合うことがあります。そして自然界には雑草という植物も害虫という虫も居ません』と言われた言葉が忘れられません。私たち一人ひとりの意識と知識、そして取り組み。たとえ小さなことでも、これらが生態系の保全に繋がると実感しました。生物多様性を意識し、賢くなる必要があります。

生物多様性のことを多くの人に知ってもらうために、2012年9月に旗揚げした様々な団体のキャラクターによる広報組織です。



生物多様性 キャラクター応援団

～全国のキャラクターからのおしらせ～

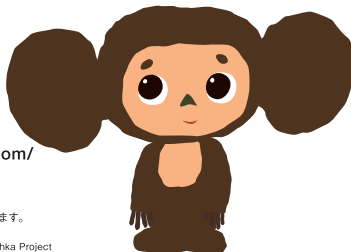
チェブラーシカ

(チェブラーシカ・プロジェクト)

→ <http://www.cheb-project.com/chiiisakutemo/>

※「ちいさくてもできること」は、
にじゅうまるプロジェクトにも登録されています。

©2010 Cheburashka Movie Partners/Cheburashka Project



好奇心旺盛で人一倍頑張り屋さんの不思議ないきもの。お友達や自然のために「ちいさくてもできること」を頑張っています。オリジナルストーリー『チェブラーシカの森散歩』では地球に住む生きもののつながりについて伝えています。



認定連携事業

UNDB-Jでは、生物多様性を守るために連携して取り組んでいる事業を認定し、広報活動を行っています。

『REDD+ 推進事業』

一般社団法人コンサベーション・
インターナショナル・ジャパン (CI ジャパン)

森林を守り回復させることで温室効果ガスの排出を減らそうという国際的な取り組みです。温暖化対策だけでなく、生物多様性保全や現地の人々の生活向上にも効果を発揮できる政策として提案するとともに、途上国各地への支援を実施。国、NGO、企業、地域コミュニティなど多岐にわたるパートナーと連携して、政策的なアプローチ、科学的知見の共有、そして途上国の現場での具体的な取り組みを推進しています。



© Aya Uruguchi

→ <http://www.conservation.org/global/japan/initiatives/climate/Pages/redd.aspx>

100

「生物多様性の本箱」から

～みんなが生きものをつながる100冊～

生物多様性の理解や普及啓発のためにUNDB-J推薦「子供向け図書」を選定しています。



『カキじいさんとしげぼう』

文 = 轟山重篤
絵 = 徳田秀雄
出版・発行 =
水山養殖場 カキの森書房

カキじいさんは、なんでも知っている。「川の水と海の水がまじりあう、しげぼうの海って、いのちの十字路なんじゃよ。」カキじいさんはそういうと、ひくい声で歌いだしました。漁師による植林活動の原風景を綴る自伝的童話です。

→ <http://mizuyama-oyster-farm.com/kakinomori-books.html>

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

※UNDB = United Nations Decade on Biodiversity

「国連生物多様性の10年」の決定を受けて、2011年9月に設立。生物多様性の主流化を目指して国内のあらゆる主体が連携し様々な取組を進めています。